

スマートソリューション部門

次世代社会インフラ分野

最優秀賞

Lower power consumption by 100x
Higher transmission capacity by 125x
Lower end-to-end latency by 200x



「IOWN構想」

光を中心とした革新的な技術を活用し、従来のインフラの限界を超えた高速大容量通信、膨大な計算リソース等を提供する次世代のコミュニケーション基盤の構想。次世代社会インフラとしての将来性が高く評価された。

モバイル通信サービス分野

最優秀賞

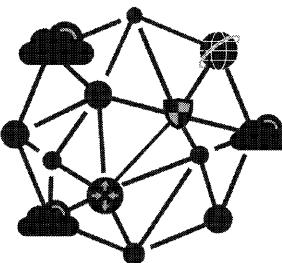
Rakuten UN-LIMIT VI

Rakuten Mobile**Rakuten UN-LIMIT VI**

1回線目はデータ利用量1GB/月以下の場合、プラン料金が0円。国内通話は「Rakuten Link」利用で無料(一部対象外番号あり)。利用状況に応じて料金が変わる柔軟でシンプルな料金プランが高く評価された。

次世代インターネットサービス分野

最優秀賞

**NTT Communications****Flexible InterConnect**

企業とクラウド、データセンターなどをオンデマンドかつ閉域でセキュアに接続。ニューノーマル時代のICTに必要な変化への適応、「分散化への対応」「安心・安全」を簡単に実現できると多くの企業に選ばれている点が評価された。

セキュリティ分野

最優秀賞

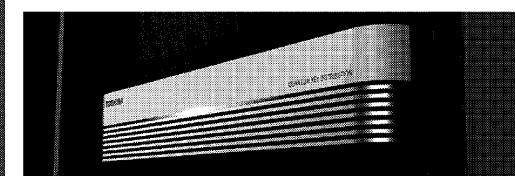
スマホでかんたん本人確認

Orchestrating a brighter world **NEC****本人確認サービス「Digital KYC」**

世界No.1の精度を誇るNECの顔認証技術を活用した、スマートフォン完結型の本人確認サービス。信頼性の高さに加え、キャッシュレス決済サービスで広く利用されるようになってきたことが高く評価された。

次世代社会インフラ分野

最優秀賞

**TOSHIBA**

東芝デジタルソリューションズ株式会社

「量子暗号通信」

世界をリードする量子暗号通信技術を用い、理論上密聴が不可能な新時代のセキュア通信を事業化。多重化および長距離モデルの量子鍵配達製品を開発した点が先進性、将来性の高さとして評価された。

MM総研 大賞2021



発表します。スマート社会を
支える製品・サービス。

MM総研はスマート社会を支えるICT(情報通信技術)分野の優れた製品やサービスを「MM総研大賞」として表彰しています。18回目となる「MM総研大賞2021」では16の製品とサービスを選びました。専門家による審査のほか、消費者へのアンケート、企業への取材などにより、認知度や使いやすさ、機能性、革新性、基盤技術としての広がりなどの観点から総合的に評価しています。

働き方/学び方改革
ソリューション分野

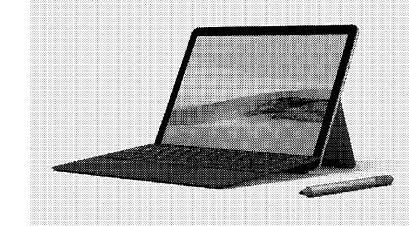
最優秀賞

**Google****「Google Workspace」**

グループウェアとして利用可能な組織向けオンラインアワーキングセット。オフィスで使う機能が揃ったクラウドサービスの提供により利用者のコロナ禍での業務効率を向上させたことが高く評価された。

スマートデバイス分野

最優秀賞

**Microsoft****「Surface Go 2」**

Surfaceシリーズの中で最も低価格かつコンパクトな2-in-1PC。テレワーク向けのサブPCや、教育用PCとして十分利用できる性能を低価格で実現したことが高く評価された。

デジタルツイン分野

最優秀賞

**COGNITE****AIデータプラットフォーム****「Cognite Data Fusion」**

産業設備などに存在する様々に分断されたデータを統合、紐づけを実現するデータ統合プラットフォーム。動的な仮想モデル、デジタルツインの構築を支援し、生産量の最大化、メンテナンスの効率化等の実現に貢献する点が高く評価された。

スマートデバイス分野

最優秀賞

**OWL Labs****SOURCENEXT****AI搭載360度会議室用webカメラ「ミーティングオウル」**

360度、マイク、スピーカー一体型のWeb会議用カメラ。AI機能で話者を自動フォーカスし、その表情まで捉えることができる。Web会議のニーズに応える商品として高く評価された。

ヘルスケアICT分野

最優秀賞

**curon****MICIN****オンライン診療サービス「curon(クロン)」**

スマホなどで診察が受けられるオンライン診療サービス。COVID-19が蔓延する中、場所を選ばず遠隔地からの受診を可能にし、医療の継続に貢献。先進性、受容性の高さから評価された。

話題賞



国土交通省

「PLATEAU(プラトー)」

国土交通省主導の3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化プロジェクト。サイバー空間に都市を再現し、まちづくりや防災政策などに活用する。開始1年で全国56都市のモデルを公開するなど実績が評価された。

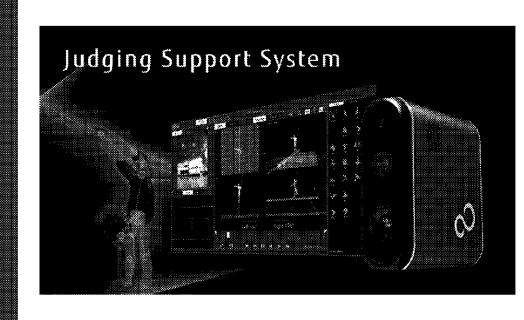
**「渋谷5Gエンターテイメントプロジェクト」**

KDDI、渋谷未来デザイン、渋谷区観光協会を中心に、「創造文化都市」実現に向けて様々な企業・団体とau 5Gを活用して取り組んでいる。渋谷区公認配信プラットフォーム「バーチャル渋谷」などで大きな注目を浴びている。

審査委員賞

**SoftBank****「Smart City Platform」**

地区の発展や課題解決を実現するスマートシティのモデルケース構築に向けた竹芝での取り組みが評価された。データ活用やスマートビル構築のほか、モビリティやVR(仮想現実)、5Gなど幅広い領域で最先端のテクノロジーを検証している。

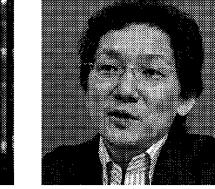
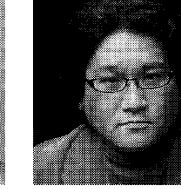
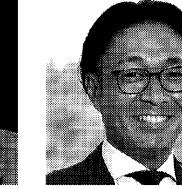
**FUJITSU****「AI体操採点システム」**

3Dセグマーでのデータ取得、骨格認識、技の辞書(DB)とのマッチングまでの一連の処理が可能で、国際体操連盟で2019年より採用。採点の公平性に貢献する点が高く評価された。

**PKSHA TECHNOLOGY****「機械学習、ディープラーニング技術を活用したアルゴリズムプロダクト」**

自然言語処理、画像認識、機械学習・ディープラーニング技術を活用したアルゴリズムプロダクトを提供する「PKSHA Technology」。汎用型对话エンジン「BEDORE」など国内のAI実装に貢献した点が評価された。

審査委員

慶應義塾大学教授
審査委員長 村井 純特定非営利活動法人 ITS Japan 理事
審査委員 天野 肇九州大学人文学部
経済学研究科 教授
審査委員 篠崎 彰彦株式会社ソフトワーク 取締役会長
審査委員 林 千晶フリージャーナリスト
審査委員 西田 宗千佳MM総研 研究課長
審査委員 作山 哲二

MM総研はデジタルトランスフォーメーションを促すICT(情報通信技術)の市場調査・コンサルティング会社です。スマートフォンや高速通信規格「5G」などのモバイル技術をはじめ、パソコンやクラウド、ブロードバンド、人工知能(AI)、ビッグデータといった情報通信分野の動向を幅広く調査し、デジタル変革のあるべき姿を提言しています。社名の「MMI」は「モバイル&モビリティ」を表し、自動運転やドローン、ロボットなど産業分野のデジタル化にも注目しています。こうした見識をもとに国内外の革新的な製品やサービスを表彰する「MM総研大賞」がICT市場の発展と拡大に寄与することを願っています。

MM総研 代表取締役所長
審査委員 関口 和一**MMI**

株式会社 MM総研

Moving Mobile & Mobility Forward

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-3 芝公園フロントタワー TEL:03-5777-0161(代表)

www.m2ri.jp